

益城町平田・柳水地区における熊本地震からの復興に関するオーラルヒストリー調査

熊本大学工学部   ○学生会員   古賀健太  
熊本大学   正会員   田中尚人

1. はじめに

震災はいつ、どこで発生するのか予測できないため、今回の熊本地震での課題や取り組みを見直し、震災による被害の軽減と速やかな復旧・復興を目指すための記憶の継承を行う必要がある。本研究の目的は、被災地の記憶・経験をオーラルヒストリーによりまとめ、復興プロセスを共有することである。

2. オーラルヒストリー概要

一般にオーラルヒストリーという手法は社会学や政治学などで盛んに研究が行われてきた。社会学では地域住民への聞き取り調査から地域独自の生活像を探り出す手法として、政治学では公人への聞き取り調査から、政治的決定の背景に存在した複雑な要素を探り出す手法として用いられている。また、まちづくりへ活かすことを目的としたオーラルヒストリーの手法も研究に利用されている。この場合、地域住民との対話による調査から地域に対する記憶を収集する。そして、編集により市町村誌等の記録に現れることの少ない地域の暮らしの記憶を収集し、顕在化したうえで地域に還元するものである。中神ら<sup>1)</sup>は、オーラルヒストリーの作業の流れを①準備②調査③編集④還元の4段階に大別している。本研究では、オーラルヒストリーの手法を用いることで、アンケート調査などで収集できない記憶を収集し、共有することで地域の復興についてのあり方を考える。

3. 益城町（平田・柳水地区）概要

益城町は、北緯 32 度 47 分、東経 130 度 50 分に位置し、熊本県のほぼ中央にある。行政域としては上益城郡に属し、その北部に位置する。熊本県庁や熊本市役所等の行政機関に程近く、熊本県の玄関口である熊本空港、九州自動車道・益城熊本インターチェンジ等を有し、交通網及び立地条件の優位性から近年は人口が増加し、大規模な開発工事が急増している。平田地区は、益城町の北部中央に位置し、南北にかけて細長い

地形となっている。南部には木山川が流れ、全体的に農業地帯が大部分を占め、443 号線に接する最北部は複数の物流サービス企業が立地している。柳水地区は益城町の北東部に位置し、地区の西は平田地区に接している。地形は、集落全体としてみると平坦な個所はあまりなく、起伏が多い。

平成 28 年の熊本地震による被害を益城町復興計画<sup>2)</sup>では「益城町の経験や教訓を全国に伝え、日本全体の防災力向上に貢献する」として記憶の継承を進めている。本研究では、平成 28 年熊本地震の益城町平田・柳水地区の被害や経験・教訓を収集し、全国や後世へ共有する手段を考える。

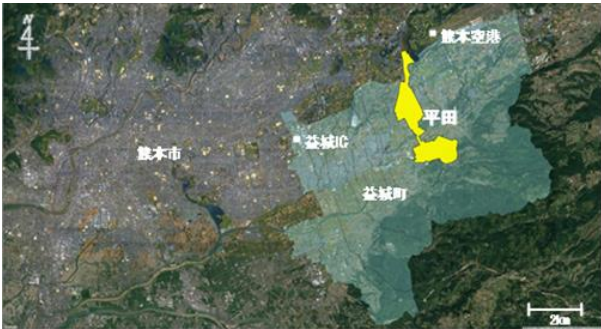


図-1 益城町平田地区概要

4. オーラルヒストリーを用いたデータ分析

調査は平成 28 年熊本地震を経験した平田・柳水地区に住まいの 9 名（男性 6 名 女性 3 名）に対して行った。（表-1）

表-1 調査の対象者

| 対象者 | 詳細（年齢、性別、住まい） |
|-----|---------------|
| A   | 70 代、男性、平田地区  |
| B   | 70 代、女性、平田地区  |
| C   | 60 代、男性、平田地区  |
| D   | 60 代、男性、平田地区  |
| E   | 70 代、男性、平田地区  |
| F   | 60 代、男性、柳水地区  |
| G   | 70 代、女性、平田地区  |
| H   | 60 代、男性、平田地区  |
| I   | 30 代、女性、柳水地区  |

オーラルヒストリーでは、住民のそれぞれの視点での震災の被害や課題・教訓を収集することができ、震災直後や避難生活の記憶を多く収集することができた。しかし、それ以外の復旧期や復興期に関しては収集があまりできなかった。

#### (1) 災害時

回答者全員から収集できた災害時のことでは、Hさんから本震に関して

「とにかく車がかえりそうになる感じで揺れて。タンスは間一髪で俺は車で車中泊しとったけんええけど、もしもこっちおったら俺たぶんおらんだったつよ。タンスの下敷きになってからね。今思うと身の毛がよだつていうかね。」

その後の余震についてIさんから

「やっぱり結構強い揺れが続いていたので音がすごかったですね。とにかくゴオオオという音だったり、瓦が落ちている音。」

というように血の通った体験談を収集できた。

#### (2) 避難時

人によって状況の違った被災時では、避難所で生活したBさんは

「こがんとこの異臭がするところにはおりきらんって思ってそのまま外にいたのですよ。」

車中泊をしたDさんは

「エコノミー症候群であつたじゃないですか。うちのも足が痺れて一つ間違ったらそれにかかる状態。」

避難所で車中泊をしたIさんは

「小さな甥っ子たちがいて駐車場で車の中にも夜泣きとか恐怖心とかから夜泣きとかしていたのですよ。夜泣きで周りに迷惑かけるっていうのもあったので、夜中とかに連れ出してドライブみたいな感じで妹と妹の旦那が連れだしてドライブし回って」

また、同じくIさんは

「女性の立場からすると結局車中泊している人がちょっと乱暴されていたとかいうニュースもみたのですよ。自分は大丈夫だろうと思うんですけど、恐怖心っていうのはありますね。夜は真っ暗なので結局街灯もふつうならついているのだけど、ついていない。」

というように避難所の目に見えない状況やさまざまな立場での課題を収集できた。

#### (3) 現在

ほとんどの人から収集できた現在のことは、現在も仮設暮らしをしているGさんは

「なかなか平田イベントがないのですよ。帰った時の不安はありますね。希望としては向こうに帰ってもボランティアじゃないのですけど、なんかみんな再建して家に行くでしょ。だからその後のフォローがほしいですね。」

Eさんは現在の心境として

「テレビなんか見よって時々「あつ、地震」と思ってからすぐ怖がるたい。でもこがんしてみても揺れやらんもん。そしてテレビをNHKにしてみとるばってん大概5分後くらいに言うもん。それでも5分経っても言わんけん、「あーなら今とな地震じゃなかったつかいな」てそういうのがちょくちょくある。」

震災を振り返ってHさんは

「今思えばよか勉強でいうかね経験ばさせてもらったよね。」

というように平田・柳水地区での今後の課題や震災により現在困っていること、震災に対する気持ちなどを収集することができた。

### 5. おわりに

熊本県では、平成28年に熊本地震が発生したことで、大きな被害を受けた。オーラルヒストリーを用いて記憶の収集を行うことにより、被災者が体験し、記憶している被害の状況や課題を収集することができた。また、発表会時に本研究の結論と今後の課題を示す予定である。

謝辞: 本研究に対して、様々なご協力頂いた益城町の皆様、特に平田・柳水郷づくり協議会の方々に感謝の意を表します。

参考文献:

- 1) 中神賢人・後藤春彦・田口太郎・山崎義人: 口述史調査記録のデータベースシステムの開発に関する研究—まちづくり・オーラルヒストリーを事例として, 2004
- 2) 益城町復興計画, 2018. 5
- 3) 御厨貴: オーラル・ヒストリー —現代史のための口述記録, 中公新書, 2002. 4
- 4) 後藤春彦・佐久間康富・田口太郎: まちづくりオーラル・ヒストリー 「役に立つ過去」を活かし, 「懐かしい未来」を描く, 水曜社 2005. 3